

# CAPNA ニュースレター

号外

子どもの虐待防止ネットワーク・あいち

〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-4-4-404

TEL052(232)2880 FAX052(232)2882

発行人 祖父江 文宏 2000年12月24日発行

## あいち大会に4500人

「ネットワークで開こう！子どもの未来」をテーマに、第6回日本子どもの虐待防止研究会あいち大会が12月8、9日、名古屋市熱田区の名古屋国際会議場で開かれました。

この大会は、これまでに東京、大阪、神奈川、和歌山、栃木で開かれ、今回は私たちCAPNAが中心になって実行委員会を組織し、1年以上前から準備を進めてきました。

今大会の最大の特徴は「市民参加」を前面に打ち出したことです。一般市民の方々に、子どもの虐待、子どもの権利について考えていただく機会にしようと、学術集会と並行して、市民団体の展示、講演、自主シンポ、朗読劇、和太鼓のステージ、合唱、映画などさまざまなイベントを行いました。参加者は、学術集会に3100人、市民集会に1200人、スタッフを合わせて4500人という空前の規模の大会になりました。

学術集会では、11月20日に施行されたばかりの児童虐待防止法をどう進めていくかが、議論の焦点の一つとなりました。児童相談所への通告が増加の一途をたどっています。保護された子どもたちが暮らす児童養護施設は、質、量ともに不足しています。これから、子どもを守る社会の役割を、いかに私たち大人が自覚し、必要なお金と人材を配置していけるか、市民団体も含めたきめ細かなセーフティーネットを張り巡らせるか、が鍵だと考えています。

次回大会は、2001年12月14、15日に神戸市の神戸国際会議場などで開かれます。

## 神田知事に要望書

CAPNAは21日、神田正秋愛知県知事に、子どもの虐待防止への取り組みを求める3項目の要望書を手渡しました。

あいち大会を終えた翌日の10日、武豊町で悲惨な餓死事件が起こり、関係機関の連携の問題が指摘されました。また、県は2001年度に一部開院を予定している県小児保健医療総

合センターの中に、虐待を受けた子の治療を手がける心理チームをつくることを計画していますが、財政難を理由にチームの縮小も検討しています。

こうしたことを背景に、虐待防止の専門的な市民団体の立場から、小児保健医療総合センターでの虐待対策の充実▽児童相談所の人員配置増など機能の強化▽児童養護施設など児童施設に対する援助の強化—の要望書にまとめ、祖父江文宏代表から知事に手渡しました。

## 「防げなかった死」大きな反響

CAPNAが12月1日に発売した「防げなかった死—虐待データブック2001」が、大きな反響を呼んでいます。

「防げなかった死」は、CAPNAの調査研究チームが、過去5年間に国内で置きた虐待死事件を新聞のデータベースなどから掘り起こし、分析を加えているほか、各都道府県の最新の取り組みも紹介、このほか介護殺人なども含めた「家庭の中のSOS」の問題を幅広く検証しています。これからの虐待死研究には欠かせない1冊と自負しています。あいち大会では700冊を販売、その後も注文の電話が相次いでいます。



本体2000円（会員価格1600円）。お求めは、CAPNA事務局＝052(232)2880＝にお電話でお申し込み下さい。書店で注文される場合は「東京のほんの森出版＝042(548)8669＝から出ている『防げなかった死』と指定してください。また、委託販売をしていただける機関には、1冊1600円、送料当方負担で、20冊以上の単位で応じています。虐待の現状を多くの人に知っていただくために、皆様の地元の講演会などでぜひ、販売、PRにご協力ください。収益はすべて虐待防止活動に使われます。

**待報!**

### 朝日社会福祉賞に内定

CAPNAの活動が認められ、朝日新聞社の2000年度朝日社会福祉賞をいただけることが内定しました。

同賞は社会の福祉に貢献し、功績の著しい個人または団体に贈られる賞で、1947年に朝日賞の「社会奉仕賞」として設けられ、75年に独立の賞となりました。これまでの受賞者は81人と5団体。昨年は「ぼけ老人をかかえる家族の会」（本部・京都）が受賞しました。来春1月31日に東京で贈呈式があります。今までCAPNAを支えていただいた皆様に関心より感謝し、さらにがんばっていきます。